

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 112号

2014/09/29 発行
株式会社 立花商店

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き： エボラによる供給懸念から週前半では高値更新するも、後半は下落傾向

① 最高:12月 LDN 市場 £ 2,168(9/24)/12月 NY 市場\$3,371 (9/24) 先週比 **LDN + £ 63/NY +\$112**
② 最低:12月 LDN 市場 £ 2,110(9/23)/ 12月 NY 市場\$3,297 (9/23) 先週比 **LDN + £ 110/NY +\$240**
週内価格差額 (①-②) : LDN 市場 £ 58 (傾向↑) / NY 市場\$74 (傾向↑)
週内建玉推移 : L D N市場 252,420 枚(9/19 終了時)⇒258,146 枚 (9/25 終了時) **+5,726 枚**
NY市場 206,531 枚(9/19 終了時) ⇒209,687 枚 (9/25 終了時) **+3,156 枚**

【 9月 22日(月) 】 両市場とも7日続伸

カカオ豆の最大生産地であるコートジボワールでエボラ出血熱がまん延し、供給が妨げられるとの懸念から、3年半ぶりの高値を付けた。ニューヨーク市場の12月きりは69ドル(2.1%)高の3328ドルで終了。一時は2011年5月以来の高値となる3343ドルを付けた。ロンドン市場の3月きりは39ポンド(1.9%)高の2093ポンドで終了。一時は11年3月以来の高値となる2095ポンドまで上昇した。12月きりは31ポンド(1.5%)高の2136ポンドで引けた。

【 9月 23日(火) 】 両市場とも利食い売りに反落

コートジボワールでのエボラ出血熱をめぐる懸念からこれまで相場は大幅高となっていたが、利食い売りに押された。ニューヨーク市場の12月きりは31ドル(0.9%)安の**3297ドル**で終了。一時、2011年以来の高値となる3366ドルを付けていた。ロンドン市場の12月きりは26ポンド安の**2110ポンド**で終了。一時、2011年3月以来の高値となる2155ポンドを記録していた。

【 9月 24日(水) 】 両市場とも反発=エボラ出血熱感染拡大を懸念

西アフリカでエボラ出血熱感染が広がり、世界最大産地で輸出が妨げられるとの懸念で、急激な上昇トレンドが再開した。ニューヨーク市場の12月きりは74ドル(2.2%)高の**3371ドル**

で終了。コートジボワールでもエボラ出血熱が発生するのではないかとの懸念が高まった。取引時間中の高値は2011年5月以来の水準。ロンドン市場の12月きりは58ポンド高の2168ポンド、3月きりは、45ポンド(2.2%)高の2112ポンドで引けた。一時2114ポンドまで上昇し、これは11年3月以来の高値水準。

【9月25日(木)】両市場とも反落

ニューヨーク市場は反落。12月きりはエボラ出血熱への懸念から、一時3399ドルと、3年半ぶり高値をつけたが下落に転じ、38ドル(1.1%)安の3333ドルで引けた。トレーダーらによると、供給のペースは需要を上回っており、需給面では弱い地合いが続いている。ロンドン市場も反落。12月きりは一時2187ポンドの高値をつけたが下落に転じ、28ポンド(1.3%)安の2140ポンドで引けた。

【9月26日(金)】ニューヨーク、ロンドンとも続落

ニューヨーク市場のココア先物は、続落。12月きりは、22ドル(0.7%)安の3311ドルで終了。前日は2011年4月以来の高値の3399ドルを付けていた。ロンドン市場の12月きりは、2,124ポンド、3月きりも続落し、16ポンド(0.8%)安の2076ポンドで引けた。

2、カメルーン：8月のカカオ豆輸出量 6,666トンへ上昇(9/24)

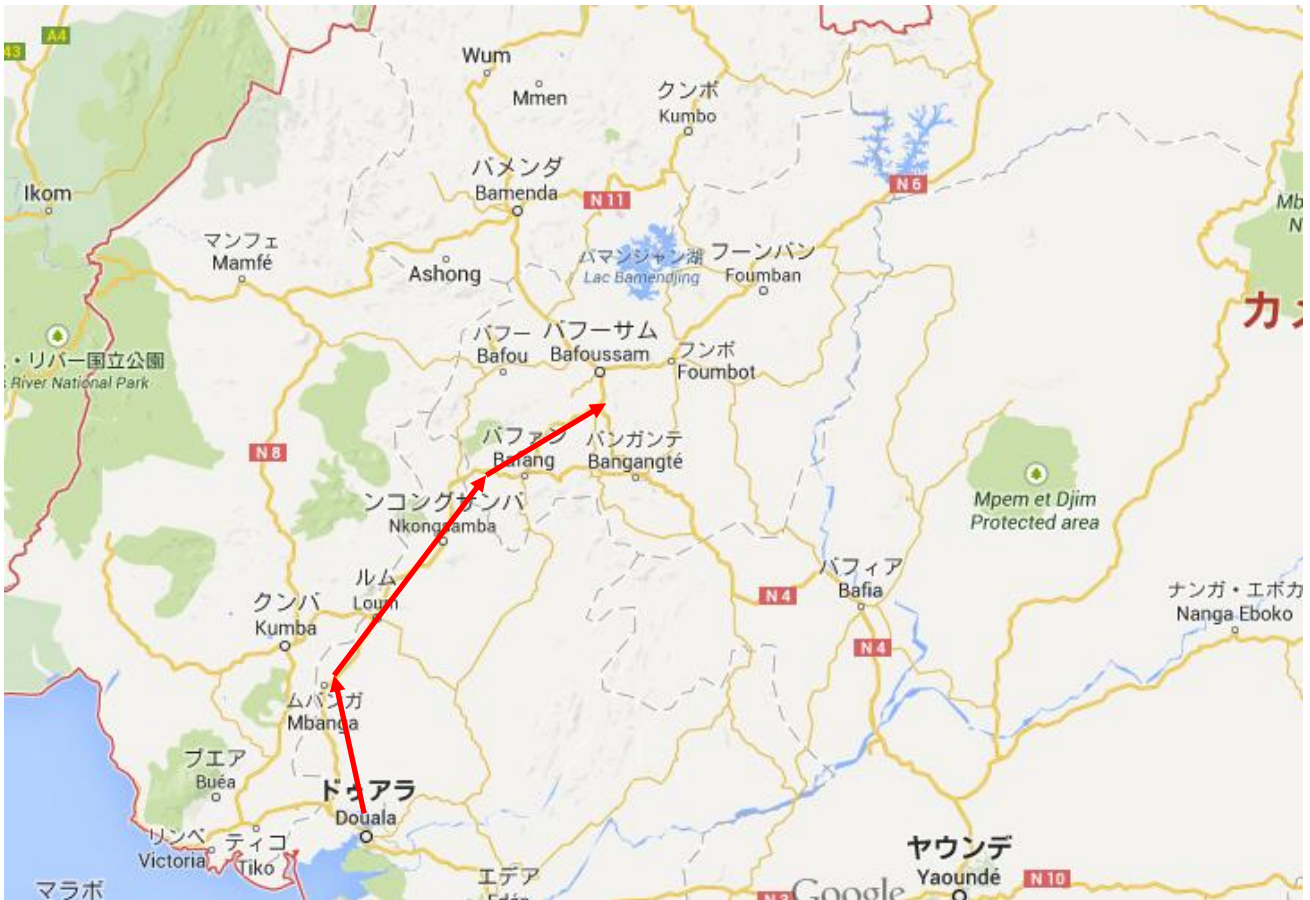
カカオ・コーヒー委員会(NCCB)によると世界第5位のカカオ生産国であるカメルーンは、2014/15期の初めの月である8月には6666トンのカカオ豆を輸出し、昨年同時期の6252トンを上回った。この数量は7月に同国から出荷された5472トンをも上回っている。

輸出業者自体は7月の15社から、8月には10社と減少している。最大手はTelcar Cocoa社で2408トン、続いてOlam社が1613トン、Cameroon Marketing Commodities社が803トンである。

カメルーンのカカオ豆シーズンは8月1日から翌年7月31日までで、メインクroppは10月から翌年2月/3月、ライトクroppは4月/5月から7月である。カカオ豆は主に4つの地域で生育しており、中部・南西部で全体の40%、南部で15%、東部で5%を占めている。栽培地域は徐々に北西部や西部にも広がりつつある。

カメルーンでは今期20万9905トンのカカオ豆が栽培されており、この数値は昨シーズンの22万8948トンより8%減少している。

カメルーン産地報告：



先日、カメルーンのドゥアラからンコンサンバを通り、バフオンの先のコンジャク（地図にも名前が載らない地域）というカカオ農家の村まで足を運びました。

カメルーンカカオの問題点は、①生産地域が南西部・中部・東部と広く、まだまだインフラの整っていない生産地域も多く効率的な集荷が難しい。②降雨量がカカオ生産国の中でも特に多く、乾燥の為の時間が確保しにくい。（品質の低下、出荷の遅延に繋がる）、③良く言えば熱心、悪く言えばお金儲けにシビア過ぎて、騙し、不正などがある可能性がある。などが挙げられます。

品質的には、ストーブを使う事でのスモーキー臭が大きな問題として良く指摘されますが、正しく発酵、乾燥したカカオ豆の品質は非常に高いアフリカの中でも特徴的なフレーバーが期待できる産地です。

既に新物の収穫が開始されており、農家出荷価格はカカオ先物相場の高騰に直ぐ反応し、非常に高値で農家は提案をしています。現在の価格は集荷業者も敬遠する傾向が強く、農家出荷価格が落ち着くのを待っている状況。とはいえ、ドゥアラ港近辺の倉庫にはかなりのカカオ豆在庫が積み上がってきている様子だが、ドゥアラ港のオペレーションの悪さ、遅さはアフリカでも際立っており、港で1・2カ月船積みを待つようなことも頻繁に起こる可能性も高い。

今回、弊社は、数量は中規模でも、毎年決まった産地からカカオ豆を買う事で、品質の改善を行うことを目標に新しい生産者団体（生産地区）と継続的な買付けを行う為のプロジェクトを行う為の

ミーティングを行いました。今シーズンから徐々にこの地域からの買付けを行っていく予定です。

【生産者の方々を集めての説明会の様子】



【弊社専用の倉庫】



【村の近くの仲買人の倉庫】



【この生産地域にたどり着くまで悪路が続く】





3、ナイジェリア：2014/15 期は好天の割に予測生産高は現状維持(9/16)

ナイジェリアの主なカカオ豆生産地域における降雨はカカオ豆の生育にそれ程影響を与えないとしつつも、関係筋は2014/15期の生産高につき前年の10%増を見込んでいる。

2013/14期では33万トンのカカオ豆を生産した、とナイジェリアのカカオ協会会長の Sayina 氏は語る。同会のスポークスマンでカカオアナリストである Robo 氏は7月、「肥料や防カビ剤、防虫剤といった政府の助成の広がりや、良好な天候、生産者の教育により、2014/15期のナイジェリアのカカオ豆生産高は昨年度の10%の増量が期待できる」と語っていた。しかし実際の主たる収穫時である8月・9月になってみると、降雨が多く天候に恵まれず、思ふような結果とはなっていない。

Adhuze 氏は、「天気は悪いが数量は予測を下回ることはないだろう。しかし降雨や悪天候により品質の低下が起こっている。だがこの品質の問題も長く続くことはないだろう」と続けた。

4、コートジ：カカオ豆収穫を前倒し(9/22)

コートジのカカオ豆生産地域における収穫開始時期は正式には来月10月とされながらも、前倒しで収穫が開始された。しかしその他の地区では度重なる大雨により病害が広がっている。

世界一のカカオ生産国であるコートジでは、9月21日までに2013/14クロープは171万9000トン程度の収穫があるだろうと輸出業者は見込む。

このような西アフリカにおける豊作や、国際的な供給過多状態にあるにも関わらず価格が継続的に高騰している原因は主に、エボラ出血熱がコートジの国境を越えてさらに流行するのではとの懸念

のためである。

米国先物市場における12月の価格は、月曜日（22日）時点で19ドル（0.6%）高の3278ドルをつけた。最も高かったのは3294ドルで、これは2011年5月以降の最高値である。3月のロンドン相場は16ポンド（0.8%）高で2070ポンド（3381ドル）。最高で2072ポンドであった。

最も活発な12月の先物契約では、2011年3月以降最高値である2121ポンドまで上昇し、最終的には12ポンド（0.6%）高の2118ポンドとなった。

Soubre 西側地域はコートジのココアベルトの心臓部だが、今週は降雨が無かった。前週では36ミリの降雨があった。この地区の郊外のカカオ豆農家 Koffi 氏によると、「11月・12月のココアの生育のための日照は十分にあった。メインクロップの収穫はすでに始まっており、これから2週間でさらにスピードアップし、10月にはよい収穫ができるだろう」と語る。

さらに Agboville、Divo、Tiassale、Gagnoa の西部の各地域においても生育に適した気象が確認されている。

Agboville の農家 Andre 氏によると、「天候には非常に恵まれており、十分な降雨で大地が潤ったおかげで、12月まで身ぶりのいい良質な豆ができるだろう」と語る。

しかしながら Aboisso 南東ではブラックポッド病が広がっている。この地域では大雨が確認されている。「10月の収穫についてはほぼ毎日雨が降っているため心配している」Aboisso 近郊の農家 Etienne 氏。「多くのポッドが黒くなってしまい、さらに昆虫による被害もある」とのこと。

Daloa 中西部で、コートジ全体の25%の生産を担う地域では、2回の霧雨が報告されている。Daloa の農家 Kouame 氏によると、「太陽はあまり出しておらず、ブラックポッド病が広がっている。多くの生産者はコーヒー・ココア団体から支給される薬品を散布する時間がなかった」という。さらに、「これからの数週間で気温が上昇しないと、多くのポッドが10月には病害により駄目になってしまうだろう」と続けた。

5、コートジ：エボラ出血熱が進行、カカオ豆輸出入に懸念(9/22)

エボラ出血熱の西アフリカにおける急速な拡大予想を原因とする、コートジからのカカオ豆輸出に関する懸念が、カカオ市場全体に影響を及ぼしている。

カカオ先物相場は42ヶ月間の最高値に達した。エボラ出血熱に対する有効な防止策が無い場合、米国の Center for Disease Control and Prevention によると、リベリアとシエラレオネでは1月までに被害数が55万から140万件に到達するであろうと発表。9月18日には、同機関がコートジに対し、センターと医療スタッフの教育をするようアドバイスしている。

エボラ出血熱はコートジに隣接しているリベリアとギニアで拡大。5月16日時点で米国カカオ先物認証在庫は2年間で最高水準であったのが現在はこの影響を受け24%も下落。World Weather 社は、コートジのカカオ豆はブラックポッド病を含む様々な病害のリスクに、大雨によって直面することになると語った。

Infinity Trading Corp 代表の Fain 氏は電話インタビューで、「エボラ出血熱の拡大がコートジからのカカオ豆の出荷を妨げるのではないかと懸念を生じさせている。米国先物市場の在庫収縮の理由は、カカオの需要の拡大と供給が厳しくなっていることの両方がある」と話す。

12月のカカオ先物価格は0.5%下落し、3311ドルを記録。ニューヨーク市場では2011年3月14日以降最高値の3366ドルをつけた。

このような価格の高騰は、次のコートジのメインクロープが世界的なチョコレート需要を満たすために十分ではないという不安が原因となっている、とトーゴに地場を置く Ecobank Group の Edward 氏は話す。

国際 Cocoa 機関は8月29日、カカオ豆の7万5000トンの供給不足の後、4万トンの流通過剰を予測。「これから育ってくるメインクロープは品質がよくないという懸念がある。今後のさらなる在庫不足に対する緊張が高まっているので、需要が満たせない可能性がある」と Edward 氏。

アジアと北アメリカでのチョコレート需要の拡大により価格は22%へ急上昇している。過去20年間でカカオ製品への世界的需要は2倍になっており、生産者が需要についていけないと米国ネスレ社の Kevin 氏はコメントした。

6、ラトビア Laima 社、将来的なチョコレートの値上げの可能性を示唆(9/24)

気候変動とアフリカの情勢により、カカオ豆の価格は来たる数年で3倍にまで高騰する可能性がある。この結果を受けて、カカオ豆を使用するチョコレート製造者らは価格の改定を免れないとラトビアの菓子メーカー Laima 社の CEO である Rolands 氏は語った。

「カカオ豆の価格は昨年から40%上昇した。価格の高騰は主に世界的な気候変動が原因であり、この気候変動は不十分な収穫の理由の1つでもある。さらに、マーケットから分断し、産業に秩序をもたらそうとするというアフリカ諸国の試みもまた、価格上昇の大きな一因である」と、Rolands 氏。続けて、現時点での予測ではカカオ豆の価格が来るべき数年のうちに3倍になるとの見方を示した。従ってカカオ豆を扱うチョコレート製造者は、製品の値上げを免れないという。

「本格派のチョコレート、すなわちカカオ含有量が高いチョコレートを製造する Laima 社では、カカオ豆の高騰は痛みを伴う問題である。価格が上昇し続ける場合に備えて、近い将来チョコレート製品価格を改定する可能性もある」と Rolands 氏。「ただ、乳または砂糖を沢山使用するチョコレートの製造者はそれほどカカオ豆の高騰で苦しむことはないだろう」と続けた。

今週のニュース作成者：西岡あずさ、生田渉

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp